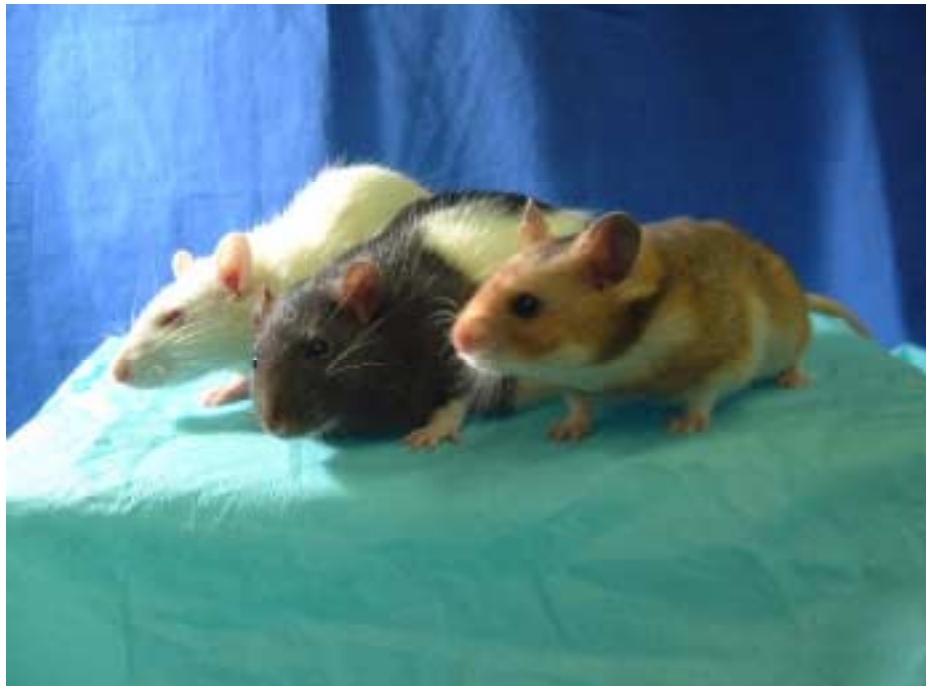


# 2003実験動物データ集



注意：2003年データ集に関して著作権は日本エスエルシー(株)が所有していますので、営業行為及び利益目的で配信、複製等の行為は行なわないで下さい。

但し、会社、学内、研究所内の配信、論文投稿等の引用については、日本エスエルシー(株)にお問い合わせ及び確認を取って下さい。



|         |     |       |                  |
|---------|-----|-------|------------------|
| お問い合わせ先 | 営業部 | 関東エリア | TEL:053-486-3155 |
|         |     | 関西エリア | TEL:053-486-3157 |
|         |     | 九州エリア | TEL:0942-41-1656 |
|         |     |       | FAX:053-486-3156 |

# 条件一覧

血液学的検査および血液化学的検査は、特に記載がない限り以下の条件で実施した。

## 血液学的検査

絶食) 約16時間  
麻酔) エーテル  
採血部位) 腹大動脈(ラット)、後大静脈(マウス)  
検体) 血液(アングロット/ET;日本商事 添加):血液検査  
血漿(3.8%クエン酸ナトリウム添加):凝固系検査  
測定機器) Coulter Counter T-660 :血液検査  
Coagulometer KC-40 :凝固系検査  
略語) MCV:Mean corpuscular volume  
MCH:Mean corpuscular hemoglobin  
MCHC:Mean corpuscular hemoglobin concentration  
PT:Prothrombin time  
APTT:Activated partial thromboplastin time

## 血液化学的検査

絶食) 約16時間  
麻酔) エーテル  
採血部位) 腹大動脈(ラット)、後大静脈(マウス)  
検体) 血清(-80°C保存)  
測定機器) 日立-736/10型オートアナライザー、FLAME PHOTOMETER FLAME-30C、  
CHLOR METER C-200AP  
測定方法) Total protein :Biuret法  
Albumin :BCG法  
A/G :ALB/(TP-ALB)  
GOT(AST) :リンゴ酸脱水素酵素共役法  
GPT(ALT) :乳酸脱水素酵素共役法  
Alkaline phosphatase :p-NPP法  
Glucose :ヘキソキナーゼ法  
Total cholesterol :CE-COD-POD法  
Triglyceride :LPL-GK-GPO-POD法  
Phospholipid :PLD-CHD-POD法  
Total bilirubin :Diazo法  
Blood ureanitrogen :Urease-GLDH法  
Creatinine :Jaffé法  
Inorganic phosphorus :Fiske-Subbarow法  
Calcium :OCPC法  
Sodium :炎光光度法  
Pottasium :炎光光度法  
Chloride :電量滴定法  
Non esterified fatty acid :ACS-ACOD-SCEP法

# 関節炎誘発モデルマウス

DBA/1J Jms Slc

## DBA/1J Jms Slc

### 由来

DBA/1Jマウスは、コラーゲン誘発関節炎モデル動物で当社では本マウスを1997年に東大医科学研究所から導入し、以後生産・供給を行っている。



### 毛色

淡チョコレート色

### 特徴・用途

- ・コラーゲン関節炎モデル
- ・ヒトの慢性関節リウマチの実験モデル

## コラーゲン関節炎誘発試験

### 使用動物

系統:DBA/1J Slc マウス  
性別:雄  
感作匹数:15匹(発症例数15)  
感作週齢:8および11週齢  
固形飼料:ラボMRストック(日本農産工業)

### エマルジョン

- 1)抗原液
  - ①抗原:ウシコラーゲン II 型
  - ②溶媒:0.01M酢酸磷酸緩衝液
  - ①を②にて8mg/mLに調製
- 2)アジュバンド  
FIAでMycobacterium tuberculosis H37Raを4mg/mLに調製

1)、2)を等量で合わせ4mg/mLのエマルジョンを作製

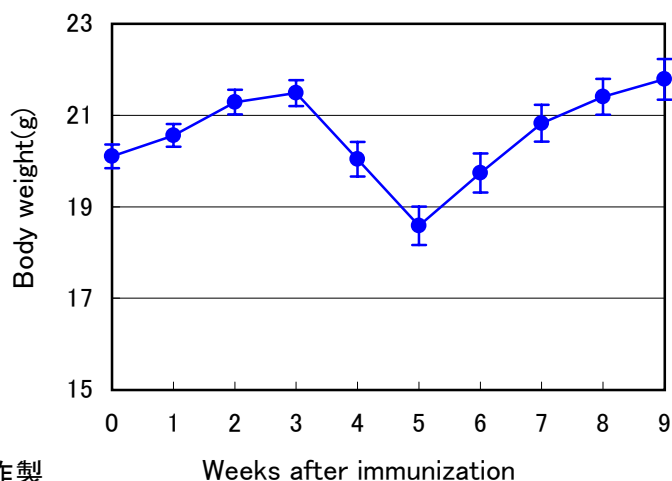
### 投与

- 第1回:耳介基部皮内  
第2回:尾根部皮内  
投与量:1、2回とも0.025mL/animalずつ(合計コラーゲン量として0.2mg/animal)投与

関節炎発症率(関節炎指数は左右前後肢、他は左右後肢の平均値を集計)

第2回感作後、翌週に93%、2週で100%

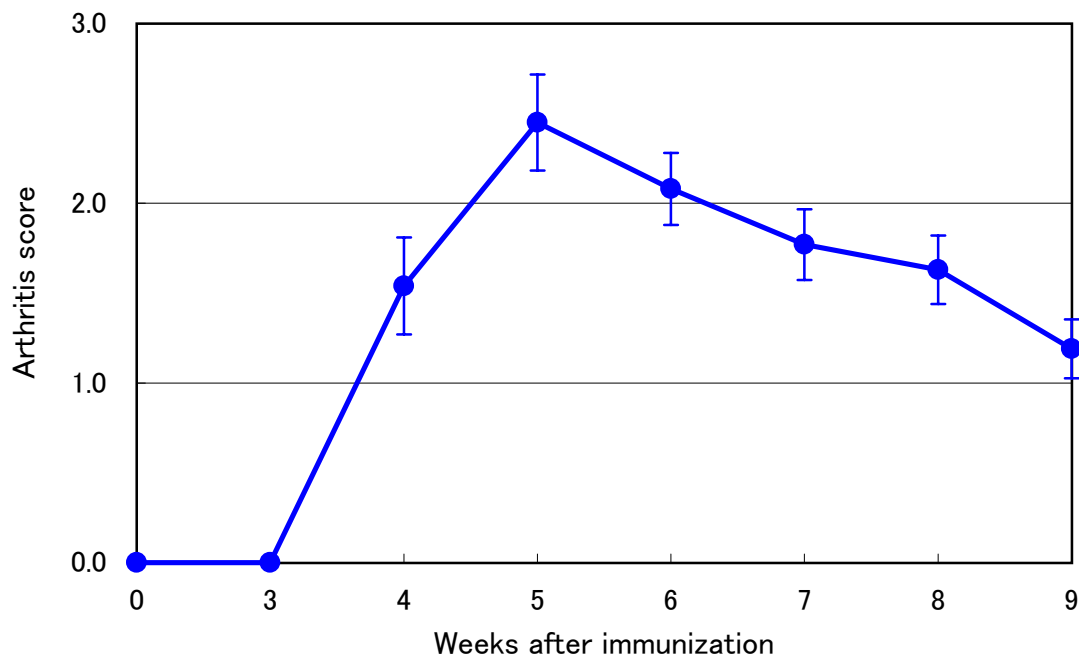
体重(感作後)



# 関節炎誘発モデルマウス

DBA/1J Jms Slc

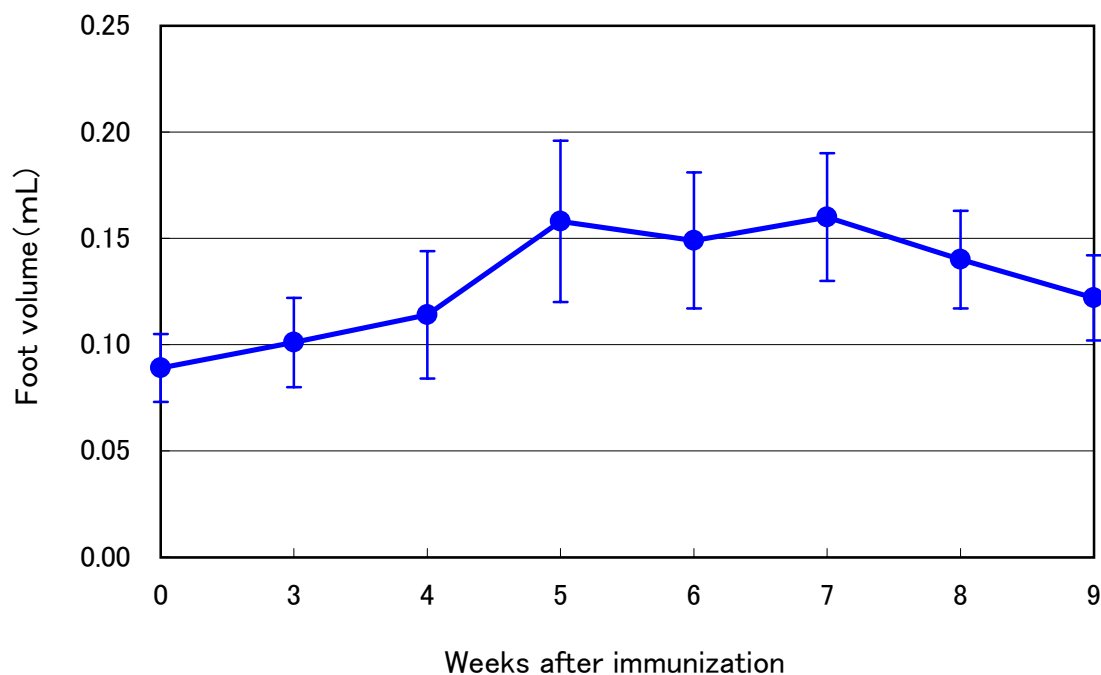
## 関節炎指数



<関節炎発症の基準>

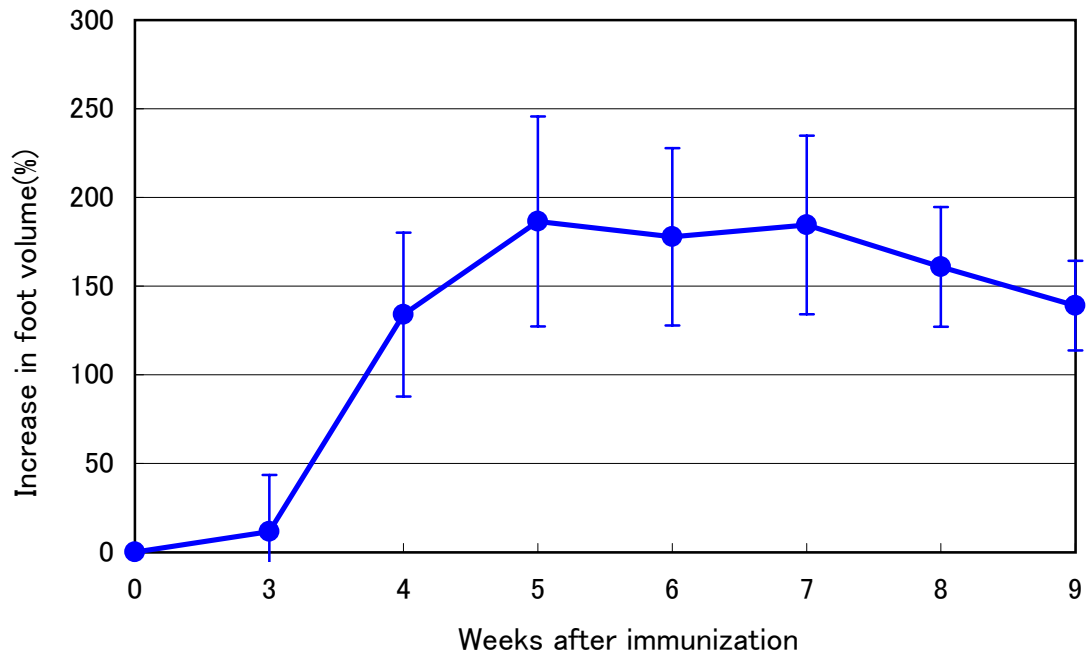
4段階の評点化（0;変化なし 1;足指の腫脹 2;足指および足裏の腫脹 3;足全体の腫脹 4;重度の腫脹）を行い、骨変性がみられた場合+1を加算して評価し、スコア1以上を関節炎発症とした。

## 後肢容積



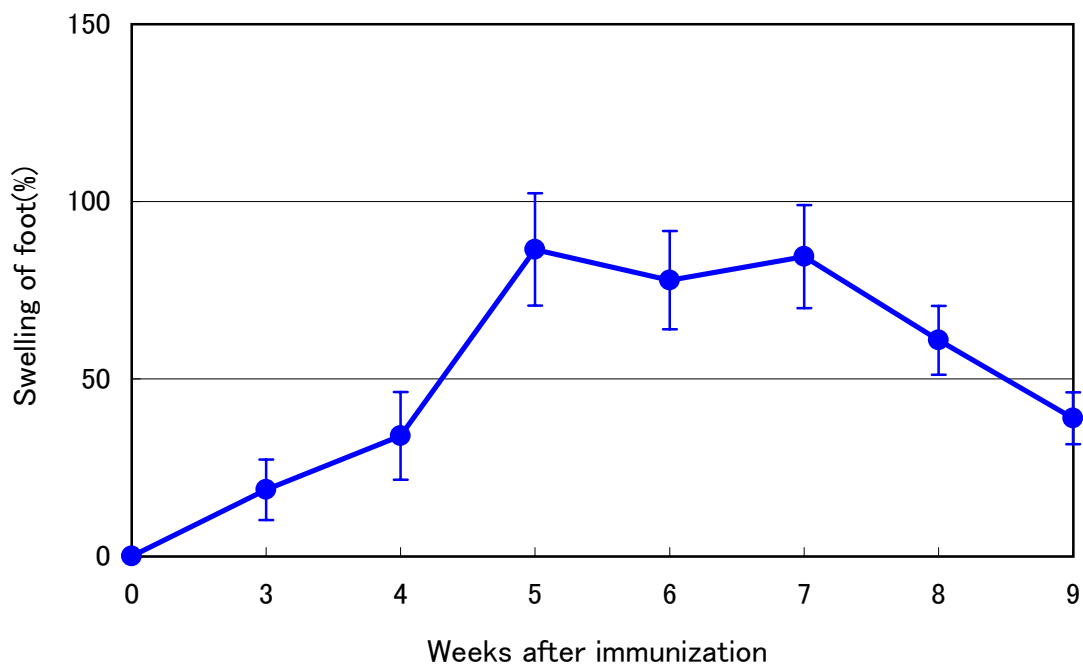
測定機器：デジタルボリュームメーター（MK-500、室町機械）

### 後肢容積増加率



後肢容積増加率  
(処置後の後肢容積 - 処置前の後肢容積) / 処置前の後肢容積 × 100

### 後肢浮腫率



浮腫率  
(処置後の後肢容積 - 処置前の後肢容積) / 処置後の後肢容積 × 100